

開館20周年記念特別展 画題で見る 近代の日本画表現

近代日本画の見どころのひとつは、画家たちの華々しい個性の競演です。それ以前の近世では、基本的に、円山派、四条派など絵師の流派によって決まった様式を学び絵画制作を行っていたため、流派様式を超えた画家の強い自己表現はあまり見られませんでした。しかし明治後期以降になると、画家たちは、流派にしばられず、個々に新しい日本画表現を探究するようになります。古画や、西洋画の表現も学び、写生を積極的に作品に反映させるなどし

て個性的な絵画が多く制作されました。そうした自分なりの表現を模索する中で、画家は自身が得意とし、画業を代表する画題を発見していきました。

本展では、明治後期から昭和期に、日本画にどのような個性があらわれたのかについて、作品約50点を展示して振り返ります。それらを山水、花鳥、人物という画題に分けて展示し、同一画題の作品同士を比較することで、画家の個性を浮き彫りにします。



花鳥画 土田麦僊《蓮華》昭和5年



人物画 広田多津《おしろい》昭和12年
京都府(京都文化博物館管理) 前期展示



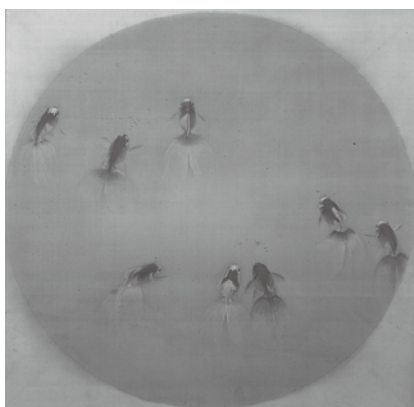
人物画 下村良之介《夕霧太夫(下絵)》昭和57年
銅駝美術工芸高等学校



人物画 幸野楳嶺《大原女図》
明治27年



風景画 小野竹斎《夕映》昭和35年
笠岡市立竹斎美術館 前期展示



花鳥画 上村松篁《金魚(4枚のうち1枚)》大正12年
松柏美術館蔵 前期展示

講演会

①「日本画とその画題——山水・花鳥・人物の変遷」

講師：森光彦(学校歴史博物館学芸員)

10月28日(日) 14:00~15:30

②「山水画と風景画」

講師：廣田孝(京都女子大学名誉教授)

12月2日(日) 14:00~15:30

会場：学校歴史博物館3F講義室
定員：各70名
申し込み期間：受付中～各講演会前日まで

開館20周年記念対談

「京都の美術を育んだもの」

登壇者：榊原吉郎 × 上村淳之

(京都市立芸術大学名誉教授) (日本画家、京都市学校歴史博物館館長)

11月25日(日) 14:00~15:30

会場：学校歴史博物館2F講堂 定員：120名

申し込み期間：受付中～各講演会前日まで

■各日とも

聴講料：無料(別途入館料が必要)

受付：当館への電話(075-344-1305)、FAX(075-344-1327)、

Eメール(rekihaku-jigyoku@edu.city.kyoto.jp)

※イベント名、代表者氏名、連絡先電話番号、参加人数を明記。

申込期間：受付中～各講演会前日まで

※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

阪急…河原町駅 徒歩約10分 10番出口「藤井大丸口」から南西へ
京阪…祇園四条駅 徒歩約15分 3番出口から南西へ
地下鉄…烏丸線四条駅 徒歩約12分 5番出口から東へ
市バス…四条河原町 徒歩約10分 南西へ
市バス…河原町松原 徒歩約5分 北西へ

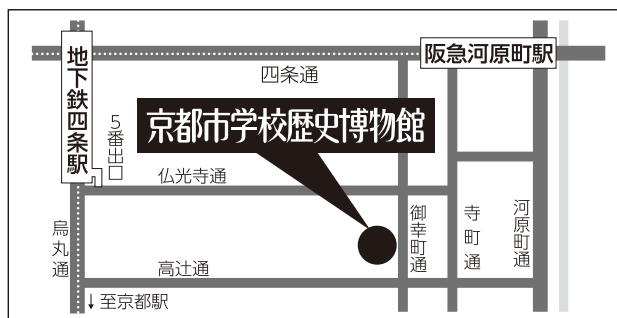


京都市学校歴史博物館

Kyoto Municipal Museum of School History

〒600-8044 京都市下京区御幸町通仏光寺下る橘町437
TEL.075-344-1305 ※水曜休館 <http://kyo-gakurehaku.jp>

●この印刷物が不要になれば、「雑がみ」として古紙回収へ



※正門(御幸町通側)からお入りください